

大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム主催 2025 年度第2回共同 FD 研修会実施報告

テーマ	地域・産業界との連携を通じた実践的な学びと授業事例
目 的	地域や産業界と連携した各大学の授業事例を通して、実践的な学びや教育効果を理解することを目的とする。あわせて、地域社会や産業界との関わりが大学教育に果たす意義を考え、授業改善や新たな連携を考える機会とする。
配信期間	2025 年 9 月 24 日(水)～10 月 6 日(月)
開催形式	オンデマンド配信(申込者のみ視聴可能な You Tube 限定公開)
出席人数	172名(アンケート回答数)
プログラム	・研修会概要について 大学コンソーシアム市川教育活動部会部会長・昭和学院短期大学教授 加藤 智樹 ・講演 1.「未来を生きる保育者のための地域連携・企業連携教育」 昭和学院短期大学 人間生活学科 こども発達専攻長 白岩 等 2.「地域と繋がる保育学生の取り組みについて」 東京経営短期大学 こども教育学科 助教 吉野 満里恵 3.「市川市農園の規格外野菜の付加価値化」 環太平洋大学国際経済経営学部 特任教授 上田 隆穂 4.「和洋 well-being プロジェクトの紹介」 和洋女子大学 産官学・地域・生涯教育センター長 健康栄養学科 教授 鈴木 敏和 5.「千葉商科大学「水環境ゼミ」 ～市川市じゅん菜池再生をめざして～」 千葉商科大学 基盤教育機構 教授 杉田 文
アンケート結果	「大変参考になった」「参考になった」との回答が99%であった。 意見や感想は以下のとおり。(一部掲載、原文ママ) ・他の大学の取り組みは参考になりました。地域・企業と連携し、学生の学びと成長を支えることが大切だと思いました。 ・講演者それぞれの工夫に頭が下がります。分野は違えど参考になる部分は多々ありました。 ・座学のみならず、様々な形態の学習経験は、学生にとって有益なばかりではなく地域貢献にも繋がるということが深く理解できました。発信することの大切さについても改めて考えさせられました。

・どの先生方も大変興味深い発表でためになりました。特に、現場を意識した社会貢献につながる実学教育の重要性について知ることが出来、これからの学びに積極的に取り入れるヒントを得ることが出来ました。ありがとうございました。

・実際の授業例の実践発表で大変参考になった。特に保育分野は、地域の子育て支援センターや、学童など結びつきやすく、産官学連携しやすい分野だと感じた。学生自身が企画することにより、実践力が高まり、当事者意識も芽生える。また同時に子どもや保護者側にも大学を周知する機会ともなり、地域連携の意義を大変感じた。このような実践発表はまた行ってもらいたい。

・ご報告から、地域を「教室」に見立てた多彩な学びが伝わってきました。昭和学院短大の企業連携、東京経営短大のアウトリーチ、環太平洋大の規格外野菜の価値創出、和洋女子大のプラットフォーム化、千葉商大のじゅん菜池での協働は、いずれもたいへん参考になります。体験を成果へつなぐ設計と可視化は有効だと感じました。一方で、評価の物差しや継続の仕組みづくりは今後の課題だと思います。

・外部との連携は学生も注目しているようですので、他大学の取り組みを知ることができ参考になりました。ありがとうございました。

・どの活動報告も、大変興味深いものでした。一つ一つの事例を大切に引き上げ、PDCA に則りまわしていく事の重要性も感じました。

・地域の皆様の力をかりて学生が学び、育っていくことは良いことだと思いました。卒業後も地域活動を継続する力がつくことが予想され、地域が活性化されると思います。

・どの大学のご発表からも、地域と大学の互惠関係を見て取ることが出来ました。大学の学びを地域に開き社会貢献につなげることで、学生の学びの広がり・深まりがもたらされることがわかります。

・各大学が地域に密着した活動を、それぞれの専門性を活かして、学生たちと共に展開していることを知ることができました。

・各短大/大学が、学修や活動を通して、将来市川市で活躍できる人材を育成していることを実感しました。大学コンソーシアムならではの研修会であったと思います。ありがとうございました。